

役員挨拶



NPO法人若者就職支援協会
理事長 森 智洋

本年六月より若者就職支援協会（略称Y E S）の代表になりました森智洋と申します。私とY E Sとの関わりは平成25年にY E Sに寄付をしたところから始まります。その後、前代表の黒沢一樹が一人で行ってきたキャリア教育を集団で行うようになり、本格的に事業に関わるようになります。そして今年、Y E Sは役員一新と共に第二のステージを迎えるました。より多くの方々に団体業務に参画し

○○発行日：令和元年七月二十七日（土）
○○発行人：森智洋
○○東京都足立区千住旭町36番5号

NPO法人若者就職支援協会 広報第一号 Young Employment Support Association (略称Y E S)

ていただき、業務の分業化、活動の広報を進めていきます。

また団体運営の透明性の確保も進めなければならない課題です。限られた人だけが情報を持つのではなく、社会に公開することが団体の存在にとって必要不可欠のことになってきております。この数多くの課題を皆様のご協力のもと進めていきたいと考えておりますので、よろしくご支

援をお願い致します。年間40回ほどのキャリア教育事業、そして居場所活動も北千住にて行っております。それぞれの記事をご覧ください。Y E Sをこれからも何卒よろしくお願いいたします。

副理事長 鈴木 慎悟



はじめまして。副代表に就任しました鈴木です。団体に入り約四年。団体加入の経緯を自己紹介代わりにお話します。四年前の秋。当時、路上で意気投合した見知らぬ青年とお酒を飲んでいました。

創業者の黒沢です。六月から理事長は森に移しました。生きづらさを抱えた人達にリアルと希望を届けるためメンバーサポートや広報を頑張ります。よろしくお願ひします。

理事 黒沢 一樹



酔っ払ってしまった青年が同じ道端で飲んでいる酔っ払いに絡んでおり、心配になつたため駆け寄るとその飲んべえ達とも意気投合。その飲んべえというのが前代表の黒沢一樹。その時の「授業に来ない？」という誘いからの不思議なご縁で今があります。副代表になつたからには精一杯努めさせていただきますので



理事 二井 豪

平成28年から理事を務めさせていただいています。本業は出版社で高校教育関係の専門誌を担当しています。一人でも多くの若者が自分の人生を全うに生きられるよう支援を考えたいです。会へのご協力をよろしくお願ひします。

ボランティアスタッフ紹介



YESキャリア教育事業部 前田有美

大学時代、生活困窮者向け学習支援教室でアルバイトをしていた。しかし、生来のネガティブ思考と仕事の多忙や失敗から鬱になり離職。社会復帰の過程で始めた選挙活動の手伝いを通して政治を広く学びたいと思いつた、平成27年、ある政治塾の講師になりました。

YESとの出会いは、その政治塾の開講式。黒沢一樹さんの中卒、転職五十年」という自己紹介のインパクトと当事者目線で若者支援を行う

姿勢に惹かれました。およそ半年後、就職活動と高校のキャリア教育授業などを通してYESに関わり始めました。

『ネガポジで就職』

黒沢さんの勧めで始めた簿記検定の合格と、彼の就活支援で希望する職場に採用されて自信が育ちました。最大の収穫はネガポジ思考を通して人や物事を多面的に捉える習慣がついた点です。職場で慣れる人がいても、ポジ変換で「仕事熱心ゆえだ」と捉えると冷静になります。

『目指せネガポジ全国展開』

今後も学習支援活動やYESのキャリア教育授業を続け、若者世代への働きかけを続けます。東京以外にも展開したい。他者に自分の意志を伝えられる力はあらゆる場面で求められますから。

YESキャリア教育事業部 パーソナル・コーチ 角田知之



YESとの出会いは平成29年九月に黒沢一樹さんと出会ったところから始まります。私が月一回で行っていた異業種交流会「人むすびの場」に黒沢さんがゲストとして来てYESの活動についてお話をされました。その時の定時制高校生の数が自分の想像以上に多いことにショックを覚え、是非高校に行って定時制高校のリアルに触れたいといふ気持ちが募り授業に参加しました。その後、これまで12回の授業に参加しています。また、昨年からYES関連で執筆の仕事を始めたので、表現力にも磨きをかけたい。他者に自分の意志を伝える力はあらゆる場面で求められますから。

この活動で私が得たものを二つに絞って紹介します。一つ目は「社会とのつながり感が深まったこと」です。協会の仲間たちと共に定時制高校の授業に参加して多様な背景や個性を持った人（大人も高校生も）と触れ合って、「多様な人たちで構成されている社会のリアル」を感じ取ることが出来て、これまで無関係だと切り捨てていたことが無関係ではないと思えるようになりました。先日、横断歩道で渡ろうかどうか迷っていたお年寄りを見かけて「私と一緒に渡りましょうね」と声をかけることが出来たのはこのお年寄りを見かけて「私と一緒に渡りましょうね」と声をかけることが出来たのはこのように渡りましょうね」と声をかけることが出来たのはこのような「多様な人とのつながりの感覚」が私の中に育ってきたからだと思います。二つ目は「自己理解が深まったこと」です。認定講師のトレーニングの中で、失敗したこと、友人に応援してもらったこと、

などを振りかえることで、いろいろなドラマがあつてもけなげに頑張って生きてきたなと改めて自分の人生を褒めてあげたい気持ちになりました。これからも目標としては、もっとコミュニケーション能力を高めて、生徒一人一人としっかり心を通わせたいと思っています。彼らが希望を持って今日を生きよう、明日を生きようと思ってくれるような楽しい時間を与えることが出来れば、それが彼らから多くのことを学ばせていただいている私からのささやかな恩返しかなと思っています。

キャリア教育授業について

～3つのプログラムで、学校現場へ「リアル」と「希望」を届けます～

YES人材開発室 人材開発室長
キャリアコンサルタント／
児童学修士（心理学専攻／
フロー理論）
近長 由紀子

定時制高校からスタートしたキャリアの出張授業。授業はワイワイと始まります。「この見えても昔ホストですかー」「真っ赤なカーリーへアーで証明写真撮ったんだけどダメって言われちゃってさー」「息子溺愛しすぎて毎朝私が起こしてあげるのー」。その空気感の中で、普段はなかなか席について話を聞けない生徒たちも、少しずつ授業に興味をもってくれるようになります。

プログラムは「ネガポジ流自己分析未来ワーク」「最低限！知っておきたい労働法規」「失敗から学ぶ未来人ワーク」の3つ。様々な事情から夢や希望を感じるのが困難な生徒たちに、違う見方に気づいてもらうことで自分のことを主体的に考えてもらいたい。将来も色々なことがあるかも知れないなか、「アブナイ」・「ヤバイ」というアン

などを振りかえることで、いろいろなドラマがあつてもけなげに頑張って生きてきたなと改めて自分の人生を褒めてあげたい気持ちになりました。これからも目標としては、もっとコミュニケーション能力を高めて、生徒一人一人としっかり心を通わせたいと思っています。彼らが希望を持って今日を生きよう、明日を生きようと思ってくれるような楽しい時間を与えることが出来れば、それが彼らから多くのことを学ばせていただいている私からのささやかな恩返しかなと思っています。

テナの感度を高めてもらいたい。間違うこと恐れ立ちすくむのではなく、失敗を重ねながらも一步を踏み出し続けてもらいたい。そんな想いで提供しています。

今では、全日制高校や大学から多くの申込みを頂戴するようになりました。進路に関わらず「世の中のリアル性のため、場所等、学校を特定する情報は公開することが出来ません。具体的な情報はメールで問い合わせいただけます。



ボランティアがまだ必要です。生徒と同じ目線で関わる方、ぜひ私たちと一緒に活動してください。お待ちしています。

これはほんの一部です。

9 / 11 (水)	13 : 30	15 :
10 / 8 (火)	11 : 40	12 :
10 / 29 (火)	11 : 10	11 : 50
	30	30

高等学校の授業という特殊性のため、場所等、学校を特定する情報は公開することが出来ません。具体的な情報はメールで問い合わせいただけます。

キャリア教育授業参加ご希望の方へ

shien.com



居場所活動について

Y E S 創業者・理事
黒沢 一樹

子どもと大人の多世代交流
学びと遊びの時間を創ろう

創業者の黒沢です。本年六月から理事長ではなく理事となり、組織の公化を進めていふところです。今回は、私が主事業へと進めたいと考えてお話をさせてください。

去年の四月から北千住の街に事務所を移し、新しい活動をはじめました。それが、「居場所活動」です。今まで学

校現場に行くことだけで、子ども達を団体として受け入れる体制が不十分でした。そこで、子どもたちの「居場所」を創ることが必要だと思い、始動したのです。

身はどういうものかを説明します。活動の想いとしては、子ども達に対する多世代交流であり、学びと遊びの時間を作ることです。子どもと大人世代が一緒にごはんを食べ、語りあう時間やゲームをしたり、勉強を教え合ったりする場にしています。火曜日と金曜日の16時～20時が活動時間。学校終わりにでもよってもらえたならと考えています。

と金曜日の16時～20時が活動時間。学校終わりにでもよつてもらえたらなど考えていま
す。

しかし、お恥ずかしい話ですが、新しくはじめた居場所

活動は正直なところ：私たちのチカラが足りないため、活

動の幅が拡がりきれていない状況です。地域の中での認知

度が足りないことやスタッフメンバーやの資源不足、また、

地域の子ども達の参加の少なさがその要因と考えていま

す。去年の失敗を活かし、本年は体制を整備しながら進めたいと思います。ぜひ、

みなさまにお力を貸しいただければと考えています。

最後に一言。私たちは子ども達にとにかく様々な大人に

触れてほしいと考えています。素晴らしいと感じる大人

もいれば嫌いな大人だっているはず。ただ、それが結果的

に、自分自身の判断軸を創る
キッカケになります。

「食」を通して、「職」をイメージし、この活動に関わる全ての人の「色」を形成す



四、数据的采集与处理



Y E S 初の広報となりました。手探り状態で進んでいるような状況です。それぞれの事業へのご協力をお願いいたします。
(森智洋記)

編集後記

(森智洋記)

るキッカケになればよいなあ
と思います。